石油化学工業協会

２０２６年１月実績概要（メモ）

（２０２６．２．１９）

在庫調整のつばぜり合いがある中、誘導品類の生産は多くの製品で前年割れを来す。

１．生　産　動　向

イ）エチレン　４３３，７００トン
　前　月　比　▲５．２％（▲２３，７００トン）
　前年同月比　▲６．９％（▲３２，３００トン）

生産増減に係る諸要因	＜前　月　比＞	＜前年同月比＞
日数増減	―	―
定修要因等	▲３．６　％	▲　０．８　％
能力増減	―	―
稼働率変動	▲１．６　％	▲　６．１　％
生産増減率	▲　５．２　％	▲　６．９　％

稼働プラントの実質稼働率試算：前月７７．０％* → 当月７５．８％ ← 前年同月８０．６％
定修プラント：前月　なし　→ 当月　１社１プラント　← 前年同月　なし

ロ）主な石油化学製品
前月比は、稼働率要因や定修規模差から、PS、AN、SBR、ベンゼン、キシレンなどの１０品目がプラス。MMA モノマー、EO、EG などの７品目はマイナスとなった。
前年比では、主に稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、塩ビモノマー、EO、EG、トルエンなどの１３品目がマイナス。AN、SBR などの４品目はプラスとなった。

２．樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ）生　　産
前月比は、定修規模差や稼働率要因から LDPE、PP は微増、PS はプラスとなった。HDPE は稼働率要因等からマイナスとなった。
前年比は、主に稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、PS の４樹脂ともにマイナスとなった。

ロ）国内出荷
消費のマインドは、持ち直しの動きが続いており、前月に対し暮らし向きの面等で改善が見られている。国内の生産活動は、１月時点の予測では輸送機械、電子部品・ディバイス工業で上向きの動きが見られている。トレンドでみても前月に対して生産に関する強気の姿勢の高まりが出ている。
汎用樹脂の出荷は、前月比は、年末年始のユーザー側の休暇日数の差もあり、当月は LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナスとなった。前年比でも４樹脂でマイナスとなった。
分野別の出荷状況では、前年比で、フィルム等の包装材関係は、物価高は鈍化しつつも消費性向の変化から HDPE、PP、PS でマイナス。LDPE のみは微増となった。
包材以外の出荷分野では、LDPE の加工紙分野、PP は押出成形分野、PS の雑貨・産業分野が前年を上回る出荷となったが、これ以外の出荷分野ではいずれもマイナスとなった。

ハ）輸　　出
アジア域内の玉の余剰感が続いているが、市況面では地政学リスクを見込んだ原料面での供給懸念等から先安観が後退しつつある。
国産品の輸出は、前月比で LDPE、HDPE、PP はマイナスだが、前年比は LDPE、PP、PS でプラスとなった。

ニ）在　　庫
在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PS の４樹脂で増加した。在庫率(季節調整済）は、LDPE、HDPE は上昇、PP、PS は低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP はやや高め、PS は適正水準からタイト気味となっている。

	前月対比増減量（単位:トン）	季節調整済在庫率（単位:ヶ月）	
		１２月末	１月末
LDPE	＋２１，４００	３．７	３．８
HDPE	＋　５，０００	４．３	４．４
Ｐ　Ｐ	＋２９，７００	３．４	３．３
Ｐ　Ｓ	＋　１，５００	２．０	１．７

前月からの修正を*で付記

以　上